

☑差別や偏見を感じた場所において、「市役所などの公的機関」の回答者の属性や傾向について
 ・障害者調査において、「市役所などの公的機関」と回答した10.7%の回答者の属性や傾向について差別や偏見を感じた場所について回答した全体数（291人）との比較を行った。

【第1回計画策定部会資料より】

■差別や偏見を感じた場所

- ・障害者、障害児調査ともに、「バスや電車などの交通機関」が最も高く、次いで「スーパーやレストラン」となっている。
- ・障害児調査では、「保育所や幼稚園、学校」が31.8%となっている。

	障害者	障害児
調査数	291	66
バスや電車などの交通機関	41.9	56.1
スーパーやレストラン	23.4	51.5
病院などの医療機関	17.9	15.2
保育所や幼稚園、学校や職場	17.5	31.8
余暇活動の場	14.1	
市役所などの公的機関	10.7	19.7
障害福祉サービス事業所・施設	7.6	7.6
面接などの就職活動の場	6.9	
介護保険サービス事業所・施設	1.4	
習い事		12.1
その他	16.8	22.7
無回答	6.9	0

■全体との比較の中で特徴や傾向

	割合が高い選択肢 (全体より5%以上高い)	割合が低い選択肢 (全体より5%以上低い)
1 障害種別	精神障害、難病	身体障害、知的障害
2 本人の年齢	40～49歳	
3 同居者	ひとり暮らし	母親
4 生活困窮状況	やや苦しい、生活が苦しい	まあまあゆとりがある
5 親族以外の相談先	障害福祉サービス事業所・施設の職員 病院や診療所	市役所の相談窓口
6 コミュニケーションにおける困りごと	点字、音声の出版物が少ない 公的な場での音声案内が不足している 公共施設の案内表示がわからない 周囲との意思疎通がとりづらい 困っていることを周りに伝えられない 緊急時や災害時の情報が入りにくい 郵便物の重要度がわからない	
7 対応しやすいコミュニケーション手段	電話やテレビ電話を使った会話 インターネットや電子メール	
8 福祉サービスの必要性	必要である	必要ない
9 福祉サービスの利用状況	利用できていない	まあまあ利用できている

市役所などの公的機関にて差別や偏見を感じた回答者の傾向や特徴

- 【障害種別】精神障害や難病の方が多い
- 【同居者】一人暮らしの方が多い
- 【生活困窮状態】生活困窮状況が苦しい方が多い
- 【コミュニケーションの困りごと】様々な面でコミュニケーションや情報取得を不得手としている方が多い
- 【対応しやすいコミュニケーション】電話やインターネット・電子メールとする方が多い

○以下、クロス集計結果を掲載

〔凡例〕

- : 全体よりも5%以上高い
- : 全体よりも5%以上低い

【障害種別】

	調査数		種別				
			身体	知的	精神	自立	難病
全体	調査数	291	117	59	86	11	17
	割合	100.0	40.2	20.3	29.6	3.8	5.8
市役所などの公的機関	調査数	31	9	3	14	1	4
	割合	100.0	29.0	9.7	45.2	3.2	12.9

【本人の年齢】

	調査数		問2.あなたの年齢をお答えください。(令和4年10月1日現在)								無回答
			18歳	20歳	30歳	40歳	50歳	60歳	65歳	70歳以上	
全体	調査数	291	7	32	37	50	63	18	18	60	6
	割合	100.0	2.4	11.0	12.7	17.2	21.6	6.2	6.2	20.6	2.1
市役所などの公的機関	調査数	31	0	3	5	7	8	2	1	5	0
	割合	100.0	0.0	9.7	16.1	22.6	25.8	6.5	3.2	16.1	0.0

【同居者】

	調査数		問5.あなたはどなたと一緒に暮らしていますか。										無回答	
			ひとり暮らしをし	配偶者(妻・パートナ)	子ども	子どもの配偶者・パートナー	父親	母親	祖父母	兄弟・姉妹	親戚	仲間・入所施設の職員や		その他
全体	調査数	291	67	89	52	4	65	91	6	36	1	11	8	9
	割合	100.0	23.0	30.6	17.9	1.4	22.3	31.3	2.1	12.4	0.3	3.8	2.7	3.1
市役所などの公的機関	調査数	31	10	11	6	0	6	7	0	3	0	0	0	0
	割合	100.0	32.3	35.5	19.4	0.0	19.4	22.6	0.0	9.7	0.0	0.0	0.0	0.0

【生活困窮状況】

	調査数		問9.あなたの暮らしの状況について、最も近いものを直感的に選んでください。				無回答
			ゆとりがある	がまああゆとり	やや苦しい	生活が苦しい	
全体	調査数	291	9	99	119	51	13
	割合	100.0	3.1	34.0	40.9	17.5	4.5
市役所などの公的機関	調査数	31	1	5	15	10	0
	割合	100.0	3.2	16.1	48.4	32.3	0.0

【親族以外の相談先】

		問36. 親族や親戚以外にあなたが悩みを相談している人や場所をお答えください。															
調査数		市役所の相談窓口	市の相談窓口	市役所以外の障害福祉施設	障害福祉サービスの職員	介護保険サービスの職員	職場や学校	病院や診療所	児童相談所	幼稚園や保育所の先生	民生委員・児童委員	社会福祉協議会の職員	障害者団体	友人や知人	その他	は相談できない人や場所	無回答
全体	調査数 割合	291 100.0	26 8.9	17 5.8	67 23.0	13 4.5	31 10.7	67 23.0	5 1.7	0 0.0	2 0.7	3 1.0	5 1.7	72 24.7	23 7.9	69 23.7	28 9.6
市役所などの公的機関	調査数 割合	31 100.0	1 3.2	3 9.7	12 38.7	0 0.0	3 9.7	12 38.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 3.2	8 25.8	5 16.1	6 19.4	2 6.5

【相談したい内容】

		問37. 親族や親戚以外の人に相談したいことをお答えください。													
調査数		関する健康や障害に	自らの健康や障害に	家族との関係に	係事や職場の人間関係	仕事や職場の人間関係	友人や仲間に関する	将来に今後の生活や	自らの今後の生活や	経済的なこと	に障害や介護サービス	虐待や差別に関する	その他	特になし	無回答
全体	調査数 割合	291 100.0	127 43.6	46 15.8	55 18.9	34 11.7	121 41.6	89 30.6	61 21.0	25 8.6	13 4.5	51 17.5	24 8.2		
市役所などの公的機関	調査数 割合	31 100.0	21 67.7	10 32.3	7 22.6	5 16.1	16 51.6	14 45.2	8 25.8	6 19.4	2 6.5	4 12.9	2 6.5		

【コミュニケーションにおける困りごと】

		問40. 普段の生活の中で情報を取得したりコミュニケーションをとる際に困っていることをお答えください。																	
調査数		少ない、音声の出版物が	点字、音声の出版物が	公的な場での音声案内	人が少ない筆記が	手話や要約筆記が	わからぬ案内表示が	公共施設の案内表示が	インターネットが利用	インタネットが利用	周囲の意思疎通が	に伝えられないことを周	困っていることを周	緊急時に災害時の情報	入りにくい	郵便物の重要度がわか	その他	特になし	無回答
全体	調査数 割合	291 100.0	8 2.7	14 4.8	6 2.1	27 9.3	29 10.0	84 28.9	90 30.9	60 20.6	34 11.7	19 6.5	86 29.6	27 9.3					
市役所などの公的機関	調査数 割合	31 100.0	4 12.9	5 16.1	2 6.5	9 29.0	3 9.7	12 38.7	15 48.4	9 29.0	7 22.6	5 16.1	8 25.8	0 0.0					

【対応しやすいコミュニケーション手段】

		問41. あなたが対応しやすい他人とのコミュニケーション手段をお答えください。													
調査数		対面での会話	使った会話	電話やテレビ電話を	談（手紙を含む）	ペンと紙を使った筆	インタネットや携帯	SNS	点字	手話	家族や介助者を介し	た伝言	その他	をとる手段がない	無回答
全体	調査数 割合	291 100.0	176 60.5	79 27.1	31 10.7	96 33.0	46 15.8	3 1.0	8 2.7	66 22.7	12 4.1	16 5.5	20 6.9		
市役所などの公的機関	調査数 割合	31 100.0	20 64.5	13 41.9	3 9.7	12 38.7	6 19.4	1 3.2	1 3.2	8 25.8	4 12.9	1 3.2	1 3.2		

☑障害者（成人）の西東京市の住みやすさの状況について

・障害者調査では、西東京市の住みやすさについての設問を設けていなかった為、障害児調査の「西東京市の住みやすさ」と「居心地の良い場所の有無」の関係性から障害者の住みやすさを推測した。

【障害児調査における「西東京市の住みやすさ」と「居心地の良い場所の有無」の関係】

結果：居心地の良い場所が「ある」人は「とても住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」の合計が63.7%
居心地の良い場所が「ない」人は「とても住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」の合計が50.0%

住みやすさ

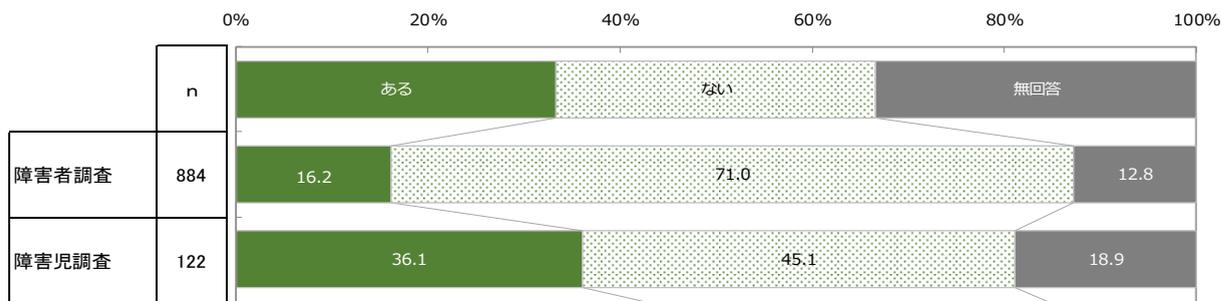
居心地の良い場所

		調査数		問54. お子さんにとって西東京市は住みやすいまちだと思いますか。				
				とても住みやすい	どちらかといえば住みやすい	どちらかといえば住みにくい	住みにくい	わからない
全体		調査数 98	割合 100.0	7	48	15	7	21
場所 は あ り ま す か。 自 分 の 家 に は あ り ま す か。	ある	調査数 44	割合 100.0	5	23	7	3	6
		調査数 54	割合 100.0	2	25	8	4	15
	ない	調査数 44	割合 100.0	11.4	52.3	15.9	6.8	13.6
		調査数 54	割合 100.0	3.7	46.3	14.8	7.4	27.8

※無回答の結果は除く

（仮説）「居心地のいい場所」が増えると、西東京市は住みやすいまちになる。

【障害者調査における「居心地の良い場所の有無」の状況】



障害児調査結果に比べて、「居心地の良い場所がある」人は16.2%と少ないことから、「西東京市を住みやすいまち」だと思っている人も障害児調査結果に比べて少ないことが予想される。